

ライティング支援セミナー『レポート・論文の書き方』

講師：小林至道 青山学院大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程

アシスタント講師：大沢 祥 青山学院大学大学院教育人間科学研究科教育学専攻博士前期課程



1. 事前配布資料・アンケート

本セミナーは、レポートとは何であるのかという基本を理解したうえで、学生のレポート・ライティングを支援する方法の学習を目的とした。また、各参加者が所属する図書館のレポート・ライティング支援の現況や課題について、講師・参加者が情報を共有することも狙いとした。時間が限られた中でより有効な研修にするために、『レポート・論文の書き方』テキストと、現況の調査を目的としたアンケートが、事前に配布された。本セミナーは、それらのテキストやアンケートを前提にして開催されたものである。

【プログラム】

- (1) オープニング
- (2) レポート・ライティング支援の現状と課題
- (3) 学生相談とライティング支援の方法
- (4) クロージング

2. セミナー概要

(1) オープニング

まず、講師（青山学院大学大学院 小林至道氏、大沢祥氏）の自己紹介に始まり、参加者同士が自己紹介をグループごとに行なった。

(2) レポート・ライティング支援の現状と課題

次に、ライティング支援の現状、本セミナーの概

要、レポートとは何か、という点について講義が行われた。

学生のレポート・ライティング支援において、文章の添削をする以前に図書館職員としてできることは何であるのか。ここでは具体的に、レポート作成の際に学生が抱える困難の把握、レポートと作文・感想文との違い、レポートに求められる要素などについて解説があった。

また、苦手な学生が多い「レポートの問いを絞り込む」ための効果的な方法の一つとして、「批判的読み」の実践が取り上げられた。実際に、ある学生が書いたレポートに対して、個々人が「批判的読み」のワーキングを行なったのに続いて、グループ・ディスカッションを実施し、代表者がグループの意見を発表した。

(3) 学生相談とライティング支援の方法

ここでは事前アンケート結果を共有した後、学生からの相談と支援、相談ケース別ライティング支援の方法、レポート・ライティング支援の実践について学習を行なった。

以下に、事前アンケートの集計結果を抜粋し掲載する。

<レポート・ライティング支援の実施状況>

1. 既に実施している	8人 (20%)
2. 実施時期が決まっている	0人 (0%)
3. 「そういう話がある」程度	3人 (8%)
4. 全く未定	29人 (73%)
合計	40人 (100%)

<学生がレポートの相談に訪れるケース>

1. 課題の内容が分からない	6人 (15%)
2. 何を書いたら良いか分からない	7人 (18%)
3. どう書いたら良いか分からない	9人 (23%)
4. 文献の調べ方や引用の仕方が分からない	17人 (44%)
5. レポートを書いたのでチェックして欲しい	0人 (0%)
合計	39人 (100%)

＜ライティング支援を行う上で困ったケース、悩んでいる点＞（自由記述より抜粋）

- ・教員との連携不足、どこまで手を貸すべきなのかの線引き。
- ・学生がどういった課題を出されているのか把握しきれない。
- ・図書館（職員）がライティング支援を行なうだけの学内的な合意が形成されていない。
- ・図書館でレポート相談できることが学生に浸透していない。
- ・支援する際の職員のスキル、ノウハウ、人手や時間の不足。

以上の事前アンケート結果を踏まえて、学生支援・学習支援上の課題、来館学生への対応、ライティング支援の心構え、相談ケース別ライティング支援の方法、レポートの評価基準などについて、講義が行われた。

その後、学生・職員・観察者、それぞれの役割をロールプレイングで体験した。ここでは、相手の立場を理解することがいかに大切かを学ぶとともに、職員として必要となるライティング支援スキルについて体験的に学習した。

ロールプレイング終了後には、ワークの解説が行なわれ、レポート・ライティング支援をする際の留意点が、以下のようにまとめられた。

＜支援する際の留意点＞

- ①支援をする前に、学生とのコミュニケーションをとる。
- ②コメントをする際は、レポートに求められる要素や評価基準も併せて説明する。
- ③良かった点のコメントもする。

（４）クロージング

リフレクションとして、約3時間にわたるプログラム内容の確認が行われた。最後に、セミナー全体を通しての質疑応答、事後アンケートの記述を経て、本セミナーは無事終了した。

今回のセミナーは、通常一泊2日で実施する内容を無理にお願いし3時間に集約して実施して頂いた。また、ロールプレイング等の場所も会場の都合で広間であったり2会場に分かれたりし、講師にとっても参加者の皆さんにとっても、ご苦労された

のではないかとと思われる。

この場をかりて講師を務めていただいた青山学院大学大学院の小林至道氏、大沢祥氏に感謝申し上げるとともに、最後まで真剣に受講されていた受講者の皆さんに厚く御礼申し上げます。

参考文献一覧①

- ・花井等・若松篤『論文の書き方マニュアルステップ式リサーチ戦略のすすめ』有斐閣、1997年
- ・井下千以子『高等教育における文章表現教育に関する研究—大学教養教育と看護基礎教育に向けて』風間書房、2002年
- ・井下千以子『大学における書く力考える力—認知心理学の知見をもとに』東信堂、2008年
- ・加野芳正「第1章 学生支援は『誰が』、『何を』支援するのか」加野芳正・葛城浩一編『学生による学生支援活動の現状と課題』『高等教育研究叢書』112号）広島大学高等教育研究開発センター、2011年
- ・小林至道・杉谷祐美子「ワークシートに着目した論文発展プロセスの分析」『大学教育学会誌』第34巻1号、2012年
- ・名古屋大学高等教育研究センター「学期末論文の評価基準」『成長するティップス先生—名古屋大学版ティーチングティップス—』(<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/tips010/basics/support/paperval.html>)

参考文献一覧②

- ・日本学生相談学会50周年記念誌編集委員会『学生相談ハンドブック』学苑社、2010年
- ・戸田山和久『論文の教室—レポートから卒論まで』日本放送出版協会、2002年
- ・谷川 裕稔・下坂 剛・山口 昌澄『学習支援を「トータル・プロデューサー」する—ユニバーサル化時代の大学教育』明治図書、2005年
- ・渡辺哲司『「書くのが苦手」をみきわめる』学術出版会、2010年
- ・読売新聞教育取材班『大学の実力』中央公論新社、2009年
- ・米澤誠「大学図書館」『Guideline』河合塾、2009年

当セミナー コーディネーター：

丸善株式会社 教育・環境ソリューション事業部
東海・北陸営業部 安藤 繁

(こばやし のりみち)
(おおさわ しょう)

【事後アンケート結果】

参加者 4 2 名、回収人数 4 2 名

1. 本セミナーのレベル・難易度は、いかがでしたか。

1. 難しすぎた	1人 (2%)
2. 少し難しかった	10人 (25%)
3. ほどよかった	28人 (68%)
4. 少し易しかった	2人 (5%)
5. 易しすぎた	0人 (0%)
合計 41人 (100%)	

2. 各テーマの内容はいかがでしたか。

1. とてもためになった 2. まあためになった
3. あまりためにならなかった 4. ためにならなかった

(1) 大学におけるライティング支援の現状とニーズ

1. 21人 (50%) 2. 21人 (50%) 3. 0人 (0%) 4. 0人 (0%)

(2) レポートとは何か

1. 20人 (48%) 2. 21人 (50%) 3. 1人 (2%) 4. 0人 (0%)

(3) 批判的読み

1. 26人 (62%) 2. 15人 (36%) 3. 1人 (2%) 4. 0人 (0%)

(4) 学生相談とライティング支援の方法

1. 28人 (67%) 2. 13人 (31%) 3. 1人 (2%) 4. 0人 (0%)

(5) ロールプレイング (レポートライティング支援の実践)

1. 25人 (61%) 2. 14人 (34%) 3. 2人 (5%) 4. 0人 (0%)

3. 解説・説明は分かりやすかったですか。

1. とても分かり易かった	23人 (55%)
2. まあ分かり易かった	18人 (43%)
3. 分かりにくかった	1人 (2%)
4. とても分かりにくかった	0人 (0%)
合計 42人 (100%)	

4. ワーク (批判的読み、ロールプレイング) のレベル・難易度はいかがでしたか。

・批判的読み

1. 難しかった	2人 (5%)
2. 少し難しかった	18人 (43%)
3. ほどよかった	21人 (50%)
4. 少し易しかった	1人 (2%)
5. 易しすぎた	0人 (0%)
合計 42人 (100%)	

・ロールプレイング

1. 難しかった	3人 (7%)
2. 少し難しかった	23人 (56%)
3. ほどよかった	13人 (32%)
4. 少し易しかった	2人 (5%)
5. 易しすぎた	0人 (0%)
合計 41人 (100%)	

5. 本セミナーは満足できる内容でしたか。また本セミナーが今後開催された場合、知り合い・同僚の方に紹介したいと思いますか。

・内容満足度

1. とても満足	16人 (38%)
2. まあ満足	23人 (55%)
3. あまり満足できなかった	3人 (7%)
4. 満足できなかった	0人 (0%)
合計 42人 (100%)	

・他人へ紹介

1. とてもそう思う	21人 (50%)
2. まあそう思う	20人 (48%)
3. あまりそう思わない	1人 (2%)
4. そう思わない	0人 (0%)
合計 42人 (100%)	

6. 自由記述

(1) 本セミナーについて、良かった点、改善すべき点を含め、ご感想をお聞かせください。

(回答)

- ・ロールプレイングについては、3者が役割を交代して取り組むことができ、対応の違い、不足点などを感じることができて大変参考になった。
- ・学生、職員、観察者のロールプレイングはいろいろ気づきがあり良かったと思います。
- ・ライティングについて良く理解することができた。
- ・ロールプレイが予想外に難しかったがためになった。
- ・ロールプレイの進行が分かりづらかった。
- ・資料が簡潔で分かりやすい。
- ・時間も丁度よかった。
- ・ロールプレイングの模範演技をしていただいたかった。(その方が実際的でさらに分かりやすい！)
- ・①良かった点：ロールプレイングを実際にできたこと。(指導法を聞くだけより、聞いたことを取

り入れ実践してみることで、気づきも生まれ身に染みると思った。また普段の仕事では時間をとれないので貴重な体験でもある。) ②改善すべき点：具体的な例、イメージが見たかった。他大学のライティング支援とか・・・。

- ・学生の立場からの意見もあり、一方的だった対応も改善できそうだと思います。そもそものレポートとは、という点をより理解するともっと対応が良くなるだろうと思いました。
- ・2日間で行うところを、3時間に縮めているということから、仕方がないですが、もう少しゆっくりお話を聞きたかったと思います。ロールプレイは純粋に学生の立場を体験できたことは貴重でした。できるならばもっと理解した上でもう一度職員側のロールプレイをしてみたかったです。
- ・前半の部分はもう少し少なくとも良いかと思いました。
- ・一方的な講義ではなかったもので、意欲的に取り組めた。
- ・実際にどのように対応すべきか、講師の方にもロールプレイングを最後にお手本としてもらえると良かった。
- ・ロールプレイ方式による問題の洗い出しのステップは非常に盛り上がり、得られるものが多かったように感じます。ただ、その流れの中で、それぞれの役割からの意見を各プレイ後に集約する時間が短か過ぎる(各3分)ように感じました。(圧縮されたプログラムの都合上、やむを得ないものだったかとは思いますが・・・)
- ・批判的な読み等グループワークが多く、気づく点が多かったのですが、ロールプレイは良い回答が分からないまま終わってしまったことが残念でした。
- ・学生が実際たずねて来た時を想定したロールプレイングなど、ためになりました。
- ・レポート指導に訪れた学生に対して、その内容がどのようなものであっても、まず良い点を見つけてあげることが必要だというお話しが印象的だった。今後注意していきたいと思う。またレポートの書き方の基礎をもう一度確認することができてとても良かった。
- ・パワーポイントの説明が分かりやすく、とてもためになった。学生対応にしても「なるほど」というアドバイスを聞いてよかったです。とくに、ロールプレイングは普段できないので、とても勉強に

なりました。

- ・良かった点：参考例があり分かりやすかった。改善すべき点：ロールプレイは時間配分を分かりやすく説明してほしい。少し時間がほしかった。
- ・ロールプレイングで「構成」「執筆」の部分での職員の対応がどのようにするべきか、大変迷いました。ロールプレイング後にその点について解説頂けたらありがたかったです。「批判的読み」は日常業務にも役立つようで、特に有意義でした。
- ・大学職員向けには3時間版でよいと思います。
- ・普段「批判的読み」といった方法で、レポートを読まないの、実際やってみて悪い部分が具体的にいっぱいできてきたのがおもしろかった。
- ・レポートとは何か、どう書くべきなのかという基礎から学べて大変勉強になった。批判的読み方を学ぶためになりました。どこまで添削するのは問題で教員との打ち合わせが必要かと思いました。指導の道は一日にしてならないと痛感しました。
- ・ロールプレイングを別部屋で行ったのですが、指示がわかりにくかったです。
- ・とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・後半のロールプレイングに関する実施説明がわかりにくい。
- ・ライティング支援を実施していなくてもレファレンスに充分役に立つ。
- ・論文の具体的な書き方を伝えられると学生も論文にとりくみやすいと思った。漠然とした悩みを解決してあげながら、的確にアドバイスできるようにしたい。
- ・図書館員が出きるレベルのことを具体的に教えていただけ勉強になりました。
- ・図書館に相談に来ない学生に対してどうすれば良いかというアプローチに困っています。何か良い案があれば教えていただけたらと思います。
- ・図書館側から先生にアプローチする時の方法論の例があったら考えていただけると良いです。
- ・本来2日間かけて行うセミナーですが、学生の立場を理解、学生役として行うことで、ライティング支援のエッセンスを習得することができました。
- ・ロールプレイングの実演見本のようなものをしていただけたらもっと良かったと思います。
- ・資料④を学生にも示すとなるほどと納得すると思

います。資料を示した後でもう一度練習に臨めると批判的読みが身につく感じがしました。

- ・ロールプレイングをすることで、対応の難しさを実感することができた。
- ・質問に来る学生の気持ちを想像する機会となった。相談を受ける時に、気を付ける点を具体的に気づくことができた。
- ・学生、図書館員の立場でそれぞれロールプレイングできたことがよかった。
- ・ロールプレイングがためになりました。今回は3時間でしたが、2日間も受けてみたいと思いました。
- ・具体的にお手本をみせていただけるとよかった。
- ・事前に配布されていたテキストについて説明されるのだと思っていただけ、内容が変更されていたのが残念でした。または配布時に参考資料であることを記載していただければと思いました。
- ・ロールプレイングで実際に学生、職員の立場で質問・受付を行い、また観察者としての立場で見ることができたのはとても良い経験でした。また、他者のレポートを批判的に読むこともなかなかない機会になりました。レポート論文指導にはまだ課題がありますが、今後の業務に役立つ内容が沢山ありましたので、大変参考になりました。ありがとうございます。
- ・一見どうにもならない論文でも評価をする点を発見することが重要だと思った。
- ・ロールプレイで「何も分からない」という学生にどう支援するのが、難しいと思った。
- ・質疑応答が充分に不足。
- ・実践的な内容で気づきが多くありました。
- ・具体的内容があってわかりやすかった。
- ・各プログラムが大変良かったためか時間不足があった。本格的な研修を受けたい。

(2) 今後、どのようなセミナーに参加したいと思いますか。もっと詳しく学びたい内容、取り上げて欲しい内容などがあれば、具体的にお書きください。

(回答)

- ・機会があれば2日間のコースにも参加してみたい。
- ・対象学年が3-4年、それ以上の学生へのレポート支援のセミナーに参加させていただきたいと思

います。また、質問にありました感想文、レポートの違いについての答えが、分かりにくかったです。(あまりに型にそったものだったので・・・)。こういったセミナーで一番聞きたいのは、そのあたりだと思うので、そこをもう少し、第三者にも分かりやすく答えにさせていただきたいと思います。やはり、あまり時間の無い中で多くの内容を入れて説明するのは大変なことだったので、もう少し、短く、まとめていただきたいと思いました。感想文になってしまい、申し訳ありません。

- ・学生への本のアピールの仕方でも効果的な方法があれば知りたい。
- ・構想の段階での相談の対応を具体的に学びたい。
- ・プレゼンテーションについて。
- ・論証の方法論をもっと掘り下げてほしかった
- ・今回は3時間版のため、機会があれば、添削スキル部分も含め2日版を受講してみたいと思いました。
- ・WEBを取り上げた内容を希望します。本日はありがとうございました。

以上